
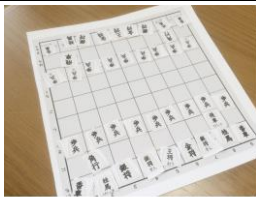



No.	内容	備考
01	<p>日本列島の地形が生んだ将棋</p> <p>竹村 公太郎（「新」経世済民新聞メルマガ） info@mitsuhashi-takaaki.net 宛先 akio@komatsuelec.co.jp 2023 年 05 月 13 日 11:49</p> <p>名著を復刻しました 書籍「企業家としての国家」 実はこの 1 冊、イギリス政府の政策を変えたほどの名著です。 ちなみに、、、元々は洋書で、 日本語の翻訳本が出ていたのですが、絶版になってしまっていました。 その結果、Amazon で 14,980 円で売られていたんです。 しかし、、、あまりにも内容が良いので、弊社で復刻し、ようやく完成しました。 弊社 HP 通常価格は 1,980 円(税込)ですが、書籍の完成を記念して 5 月 15 日(月)までなら、30%OFF の 1,386 円(税込)でお届けします。詳細はこちらからご確認ください。 >復刻本を 30%OFF で手に入れる ※こちらの案内は既に 購入された方にも送られております。 ご了承くださいませ。</p>	
02	<p>『三橋貴明の「新」経世済民新聞』 2023 年 5 月 13 日 日本列島の地形が生んだ将棋 From 竹村公太郎 @元国土交通省/日本水フォーラム事務局長</p>	
03	<p>世にも不思議な将棋</p> <p>現在、藤井聡太王将が驀進している。 原稿を書いている段階では 渡辺名人と第 81 期名人戦を繰り広げている。 藤井君はタイトル戦では負けなしという。私たちは凄い棋士を同時代で目撃していることとなる。 子供たちはパソコンゲームに夢中になっているが、日本伝統の将棋は若い世代にも不思議と食い込んでいる。 将棋は世界で例のない不思議なゲームである。 不思議なルールは「敵の持駒使用」である。 なぜ、この不思議なルールが日本で誕生して、日本中に広がったのか？ 不思議なルールを創ったのは 日本人である。 日本将棋の謎を解き明かすことは、将棋を創り出した日本人の秘密に迫ることになりそうだ。</p>	
04	<p>盤上ゲームの伝搬</p> <p>戦争を模した盤上ゲームは ヨーロッパのチェス、インドのチャトランガ、タイのマックルック、中国の象棋、日本の将棋など世界中に数多く存在する。 この起源の説は様々あるが 近年の定説では、紀元前にインドで誕生して世界中に広まったとされている。 初期のゲームは相手の駒を取って、そのポイントを競ったものといわれている。 もちろん、このゲームは賭博であり、世界中の賭博好きの人類の間に広まっていった。 伝播方法は陸上传播説と海上传播説がある。 盤と駒の立像のカサを考えると、馬やラクダの背中に乗せて運んだ陸上传播説より、船旅の時間つぶしの賭博で海上传播したという説が腑に落ちる。 以前、NHK 特別ドラマ「坂の上の雲」で、清国の旗艦「定遠」の艦内の場面であった。 汚い艦内で、兵隊たちが時間つぶしの象棋をしていた。</p>	

	脚本家は、だらしなく象棋賭博をしている 清国兵隊たちの士気の低さを表現したかったのだろう。しかし、私には「象棋は海上伝搬」だったことを表現しているように視えた。	
05	<p>99対1の日本将棋</p> <p>現在、世界中におおよそ 100種類ほど盤上戦争ゲームがあるとされている。それらを大まかに区別すると、99対1に分けられる。99は世界共通の「チェス型」である。孤立している1は日本の「日本将棋」である。</p> <p>日本将棋だけが世界共通のチェス型と異なるルールで21世紀に至っている。日本将棋だけの特異なルールとは</p> <p>「敵の駒を取るとその駒を自軍の駒として使用できる」</p> <p>持駒使用である。</p> <p>このルールは世界の他のゲームではなく、日本将棋だけのルールである。</p> <p>日本将棋のこのルールの理由は「日本人は降伏すると、すぐ敵陣に寝返るから」と酒席で面白おかしく語られる。</p> <p>しかし、世界の戦いの歴史を見れば、降伏すれば敵陣に編入されたり、敵が味方になったり、味方が敵になるのは日本独自の現象ではない。</p> <p>戦いで負けた人間が生き伸びるには当然である。</p> <p>敵陣に編入される現象は特段に驚くことではない。</p> <p>なぜ、日本将棋だけが持駒使用のルールになったか？</p> <p>「持駒使用」の謎に挑戦したのが、木村義徳九段であった。</p> <p>2001年「持駒使用の謎」が日本将棋連盟から出版された。</p>	<p>100種類ほど盤上戦争ゲーム</p> <p>99は世界共通の「チェス型」</p> <p>孤立している1は日本の「日本将棋」</p>
06	<p>チェスの伝搬</p> <p>プロ棋士である木村氏は歴史的事実と各国の将棋ゲームの駒の働きの強弱の類似に注目して、世界のチェス系と日本将棋の歴史を解明している。</p> <p>駒の働きの強弱に注目したところは、プロ棋士ならでの視点であった。</p> <p>「持駒使用の謎」を要約して木村九段の説を紹介する。</p> <p>紀元前3世紀ごろ、インドで盤上の戦争ゲーム・チャトランガが誕生した。</p> <p>その盤上ゲームは「立像」で敵味方を「色分け」していた。</p>	
07	<p>(写真-1)は立像だけのチェスである。</p> <p>インドから東に向かって東南アジア、中国そして日本へ伝わった。</p> <p>西に向かってアラブからヨーロッパへと伝わった。</p> <p>日本に到着したのは6世紀ごろで、その後、タイのマークルックで一つの改良がなされた。</p> <p>「歩の成り」である。</p> <p>立像では裏返す「成り」はできない。</p> <p>そのため歩の駒だけを平らの駒にした。</p> <p>このタイでの改良が中国、日本に伝播され、これを「タイの波」と呼ぶ。</p>	 <p>(写真-1) チェス：紀元前インドで誕生</p>
08	(写真-2)は タイのマークルック である。	

	<p>全体の駒は立像だが、 歩だけが平らな駒になっているのが分かる。 タイの波を受けて極東の海に浮かぶ日本で、 独自の将棋の進化が開始されていった。</p> <p>日本に到達した将棋は、早くも 6～7 世紀 ごろ「立像から駒型」となった。 立像の形で表わされていた 王や軍馬や歩兵 は漢字で表わされた。</p> <p>さらに、敵味方の区別は色区分ではなく、 駒を五角形にして尖った先が進む方向を表わすこととなった。</p> <p>「駒型」で「漢字」で書かれ、敵味方は「五角形の方向」で表わす 日本将棋の道具の改良から 将棋独特の「持駒使用」 ルールが生まれることとなった。</p>	 <p>(写真－2) タイのマックルック：歩は平駒 出典：Wikipedia</p>	
09	<p>(写真－3) が日本将棋で 全て 5 角形の平板である。 日本将棋の道具の改良が、 日本将棋のルールの進化につながった。</p> <p>ルールの進化があって 道具が変わったのではない。 道具が変わったからルールが変わった。 以上が、 木村九段の推理の主要な部分である。</p>	 <p>(写真－3) 日本将棋</p>	日本将棋
10	<p>残された謎「立像が平らな駒形へ」</p> <p>木村九段の推理は合理的である。しかし、ある謎が解かれていない。 その謎とは「なぜ、立像が平らな駒型になったか？」である。</p> <p>日本将棋の進化は全て「立像」から「駒型」になったことから開始された。 そのため「何故、立像が駒型になったか？」は 解明される価値がある。 木村九段もこの点には 少し言及している。</p> <p>「日本は辺境の後進国であったため、まだ木簡を多用しており、これは駒型のために絶好 の素材であったであろう」としている。</p> <p>他の部分は縦横無尽の論理を 展開しているのに、この部分の結語があいまいである。</p> <p>なぜ、立像が駒型に変わったのか？</p> <p>その問いへの答えは、将棋の世界にはない。 将棋の世界ではなく、日本人そのものに答えがある。 その答えは、日本人のモノ作りへの 本性に根ざしている。</p> <p>日本人のモノ作りの本性とは「縮める」ことにある。</p>		
11	<p>1082 年、韓国の李御寧先生は 名著「縮み志向の日本人」で、日本人は何でも縮める、と 指摘した。日本人は何でもモノを縮めてしまう。</p> <p>しかし、李御寧先生は「何故、日本人はモノを縮めるのか？」 の理由はついに述べることはなかった。</p> <p>李御寧先生の指摘から 20 年後、私はその謎を解き明かした。</p>		

	解くきっかけになったのが、広重の東海道五十三次の「日本橋」であった。	
12	<p>(図－1) が広重の日本橋である。</p> <p>歩く日本人の細工と詰め込み</p> <p>広重の描いた大名行列の先頭の足輕は、重い荷物を担ぎ、</p> <p>下を向いて黙々と歩いている。</p> <p>もちろん江戸以前の大昔から、日本列島の人々は荷物を担ぎ歩いていた。</p> <p>細長い日本列島の中央には</p> <p>険しい脊梁山脈が走っている。</p> <p>その山々から無数の河川が 太平洋と日本海に流れ下っている。</p> <p>平野といえは川の土砂が 堆積した湿地帯の沖積平野であった。</p> <p>険しい地形と湿地帯のため、日本人は車を進化させなかった。</p> <p>日本人の誰もが荷物を担ぎ、歩いていた。</p> <p>その歩き回る日本人の価値観は 「モノを小さく軽くする」 ことであった。</p> <p>モノを小さく軽くすることは、モノを担ぐ自分自身の命を救うことであった。</p> <p>モノを細工して小さく詰め込む。</p> <p>旅用具はすべて細工され小さく詰め込まれた。</p>	 <p>(図－1) (東海道五十三次「日本橋・朝之景」歌川広重作)</p>
13	<p>(写真－4) は江戸時代の小さく詰め込まれた旅の七つ道具である。</p>  <p>(写真－4)江戸時代の旅の小さく詰め込まれた七つ道具</p> <p>日本人たちは、細工されないモノを 「不細工」と馬鹿にした。</p> <p>詰め込まないモノを 「詰まらない奴」と侮った。</p> <p>縮めて詰め込むことは 日本人の美意識までに昇華していった。</p> <p>モノを縮める情熱は、ゲームにも向かった。</p> <p>特に、旅の宿での長夜の時間つぶしに、ゲームは必需品であった。</p> <p>日本に伝わってきた盤上の チェスゲームは、賭博であり人々の興奮を掻き立てた。</p> <p>ただし、そのチェスゲームは 難点を持っていた。</p> <p>ゲームの駒が立像でかさばっていた。</p> <p>この立像を歩いて 持ち運びやすくするため、小さく軽く縮める日本人の工夫が始まった。</p>	
14	<p>庶民たちの将棋物語</p> <p>タイから伝わったマークルックの「歩」の平駒がヒントとなった。</p> <p>つまり、全ての立像を 平らな駒にしてしまう。</p> <p>さらに、王、戦車、軍馬、歩などの 駒の役割を漢字で書いてしまう。</p> <p>これで将棋は一気に小さく軽くなった。</p> <p>同時に、駒を矢印の五角形にして、駒の向きで敵味方の区別をする アイディアに行きつくのは簡単だった。</p>	

	<p>木片で作られた五角形の平型の駒は、限りなく小さく軽くなった。</p> <p>木片どころか紙で作ってしまう者まで現れた。</p> <p>将棋は旅をする庶民たちの必携品となり 日本中に広まっていった。</p>	
15	<p>(写真-5) が紙将棋である。</p> <p>賭け好きな庶民は、 時間があれば盤を広げ、 薄い駒を取り出した。</p>	 <p>《写真-5》紙将棋</p>
16	<p>(図-2) は 旅の長夜をくつろぐ人々である。</p> <p>初期の将棋はチェスのルールで、 敵の駒を取っていくだけであった。</p> <p>そのため、終盤になると 盤上から駒はどんどん消えていった。 駒が少なくなれば、強い駒の王が働き、 勝負が長引き、引き分けになることが多かった。</p> <p>賭博では引き分けは許せない。</p> <p>ふと、自分の手元を見ると、取った敵の駒がいっぱいある。</p> <p>敵の駒といっても自分の駒と同じ形で同じ色である。</p> <p>勝ち負けを急ぐ旅の人々は、「取った敵の駒をもう一度使うという」 とんでもないことを思い付いた。</p> <p>持駒使用の誕生の一瞬であった。</p>	 <p>《図-2》赤坂(東海道五十三次/広重)</p>
17	<p>必然の日本将棋</p> <p>敵だった持駒を もう一度使ってみると実に面白かった。</p> <p>なにしろ捕虜だった駒が飛び出すので、終盤まで盤上は駒でにぎやかであった。</p> <p>持駒を繰り出すことで、無数の攻撃法が編み出された。 引き分けはなくなり、短時間で必ず勝負がついた。それも土壇場で形勢が逆転することが多かった。</p> <p>世界中のチェス系は、駒が少なくなった終盤は静かに終了していく。</p> <p>それに対して、日本将棋は終盤が最も刺激的で、華やかで、興奮が最高潮に達するゲームに変身してしまった。</p>	
18	<p>木村九段によれば、世界のチェス系では駒の働きを強くした改良が何度か行われた。</p> <p>しかし、日本将棋は全くそれらを受けつけなかった。</p> <p>なぜなら、チェスの駒の働きが どれほど改良されようとも、日本将棋の捕虜の敵駒の再利用の刺激と興奮には程遠かった。</p> <p>日本人は世界のチェス流と 全く異なる盤上ゲームを 創り上げてしまった。</p> <p>古代から日本列島を 歩き続けていた日本人は、モノを小さく軽くする本性を 身につけていた。日本人は将棋も小さく軽くすることに 夢中になった。</p> <p>小さく軽い駒型になった将棋は、敵の駒を再使用するという 刺激的なゲームへ進化した。</p> <p>日本で日本将棋が 生れたのは偶然ではない。 厳しい地形の日本列島を 歩きまわって</p>	

	いた人々が、日本将棋を生み出すのは必然であった。	
19	<p>編集人：三橋貴明 https://38news.jp/ 運営・発行：株式会社経営科学出版</p> <p>カスタマーサポートセンター（平日：10:00-17:00 土日祝休）</p> <p>〒541-0052 大阪市中央区安土町 2-3-13 大阪国際ビルディング 13F</p> <p>FAX 06-6268-0851 https://dpub.jp/contact_forms/</p>	
20	<p>参考 ホテル一畑</p> <p>王将戦の写真 新聞記事</p> <p><写真></p> <p>https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1t1rgGGIKsxi3Xa8815VdTxFbmFO0TEgw</p> <p>https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1rWvR2_KvbOKXmloqoVUBsikiYS-gR5B2</p> <p><新聞記事></p> <p>スポニチ 2010 年 2 月 19 日</p> <p>https://drive.google.com/file/d/1wG73LO3nHqgfBG5WzoQJgQqLJDZbt_wt/view?usp=sharing</p> <p>スポニチ 2010 年 2 月 18 日</p> <p>https://drive.google.com/file/d/1wG73LO3nHqgfBG5WzoQJgQqLJDZbt_wt/view?usp=sharing</p> <p>毎日新聞 2009 年 10 月 22 日</p> <p>https://www.komatsuelec.co.jp/arc/hnspdf/20091022_mainichi.pdf</p>	
21	<p>中国将棋 シャンチー - Wikipedia</p> <p>シャンチー（象棋、拼音: xiàngqí、ベトナム語: cờ tướng/棋將）は、二人で行うボードゲーム（盤上遊戯）の一種である。中国及びベトナムにおける伝統的な将棋類であり、中国では国家の正式なスポーツ種目にもなっている。中華人民共和国の非物質文化遺産に登録されている。</p> <p>この競技は中国語では「象棋」と呼ぶが、これは中国語でチェス類の一般表現にも使うため、特に区別する際には「中国象棋」と呼ばれる。</p>	<p>シャンチー</p> 
22	<p>朝鮮将棋</p> <p>チャンギ（장기、將棋）は、朝鮮半島の将棋類であり、2 人で行うボードゲーム（盤上遊戯）の一種である。朝鮮将棋・韓国将棋とも言う。中華人民共和国吉林省では非物質文化遺産に指定されている。他の将棋類と同様、紀元前の古代インドで考案されたチャトランガが起源であるとも言われており、シャンチーによく似ているが、成りによる駒の昇格がない、パスが出来るなどの特徴を持つ。</p>	<p>初期配置図 [編集]</p> 